

2025年度 地域連携活動助成金 活動成果報告書

1 活動概要

活動団体名	明治大学体育会ローバースカウト部
活動テーマ	七尾市における子どもデイキャンプ開催を通じた地域活性化
活動期間	2025年 3月 中旬 ～ 2025年 9月 20日
主な活動場所	石川県七尾市
連携地域	石川県七尾市
連携団体等	七尾市役所、七尾市教育委員会、北國新聞、 コロサキャンプ場（ふれあいセンター山びこ荘）
活動者数	23名 ※ 活動に参加した本大学の教職員及び学生の人数を入力してください。

2 活動概要 ※活動内容や活動成果は地域連携センターHP等で公表します。

活動目的（地域が抱える課題との関係や活動により期待される効果等、本活動が地域の課題解決や活性化につながる事が分かるように記入してください。）

スタート型：新しい地域連携活動を着想した背景、また必要性について記載してください。

ステップアップ型：「過年度の活動内容」を記載の上、今回の申請の「発展性」あるいは「応用内容」などを記載してください。※過年度の活動が無ければ記入不要です。

昨年度「気仙沼市における子どもデイキャンプを通じた地域活性化」として本助成金を申請、選考に通過し、いただいた助成金で気仙沼の子どもたちに普段では味わうことができない新鮮な経験や学びを与えることができました。活動後の保護者の方を通じたアンケートでは、「また参加したい」「楽しかった」というような言葉を多くいただいた。気仙沼市ではキャンプ場を借りて、部員で竹を加工して水鉄砲や弓などを作り、一緒に染んだり、竹を使ってそうめん流しをしたり、ハイキングをするなど活動を行った。気仙沼市と同様に新地町でも震災後約10年活動を継続して行ってきた経験を踏まえ、さらなるステップアップとして、気仙沼市、新地町での活動は今年度も継続しつつ、新たに七尾市での地域連携活動を企画した。

七尾市での過年度の活動としては、2024年に起きた能登半島地震を受け、2024年3月にローバースカウト部の志願者42名が七尾市ボランティアセンターの支援活動に参加し、公共施設等での片付けのお手伝いや個人宅の片づけ、家財道具の運び出しやがれき撤去などを行った。「ともに復興を目指そう」という思いで支援活動を行った能登半島では、震災から1年以上たった現在でも復興途中であるため、また新たな支援の必要性を強く感じた。ローバースカウト部が行ったがれき撤去のような初期支援とは別の角度からともに復興を目指せるのではないかと考え、子どもたちに向けたデイキャンプ開催を企画した。これまでの連携活動で得た経験やノウハウを、七尾市でのプログラムにも活かしていきたい。

活動計画（活動目的を達成するための具体的な計画や方法、申請団体と連携地域・団体等がそれぞれ担う役割、過年度の活動実績や次年度以降の継続性等について詳しくしてください。）

新地町、気仙沼で行ってきた地域連携活動の経験を活かし、今年度より新たに石川県七尾市での地域連携活動を計画した。主な活動内容を事前準備、デイキャンプ当日、活動にわけて記載する。

I 事前準備

3月から当部の地域連携担当が被害にあった能登半島のどの地域がどのような支援等を震災から1年以上たった現在必要しているのか、デイキャンプ開催を推してくれる市役所等があるのかを、各市役所に連絡するところから始めた。

七尾市で活動を行うことを決定した経緯として、ローバースカウト部は2024年3月に七尾市ボランティアセンターの支援活動に参加し、公共施設等での片付けのお手伝いや個人宅の片づけ、家財道具の運び出しを行うなどボランティアを行った七尾市に思い入れがある。また、より地震の被害の大きかった輪島市や珠洲市にも同様に連絡をしたが50名規模の活動場所が見つからなかった。そこで、七尾市教育委員会に会場について相談したところ、コロサキャンプ場（山びこ荘ふれあいセンター）を紹介していただき、最終的に七尾市でデイキャンプの開催を決定した。

山びこ荘ふれあいセンターの職員の方々との打ち合わせすすめながら、6月中旬には実際に現地

の下見を実施した。当部監督やコーチ、地域連携担当者間で会議を重ね、デイキャンプの計画書や保護者・児童へのポスターなどを作成した。(図1) また、七尾市教育委員会からの後援をいただいてデイキャンプを開催することが決定し、七尾市教育委員会には七尾市内の小学校へチラシとポスターの配布・広報に協力もしていただいた。8月9日には、申し込んでいただいた参加児童・保護者へ参加確認メールおよびアレルギー確認等のフォームを送信し、回答していただいた。その他必要備品の購入や発送など直前準備を進めた。

8月15日に参加部員は山びこ荘ふれあいセンターにて集合し、施設内を見て回り、児童の活動範囲やデイキャンプ当日の流れ、プログラム内容などを実際に行うなどして確認を行った。(図2)



(図1) デイキャンプポスター



(図2) プログラム確認中の様子

II デイキャンプ当日

8月16日、デイキャンプ当日、部員23名・児童12名にて第1回七尾市デイキャンプを開催した。集合・解散は、利便性を考慮し、市の協力を得て、駅近くにある七尾市サンライフプラザの一部を借り、参加児童の保護者への受け渡しを行った。また、ふれあいセンター山びこ荘のバスを出していただき、学生の七尾駅から山びこ荘、またデイキャンプ集合解散場所のサンライフプラザから山びこ荘などの送迎に協力していただいた。児童を3つのグループに分け、各グループに部員を4人ずつ配置し、その他部員が運営を行った。実施したプログラムは以下のとおりである。

① 「マニト」プログラム

「マニト」という韓国語で「こっそりあなたを支える友達」という意味の言葉をデイキャンプのテーマに設定し、プログラムを通じて部員とこともたちが多大に思いやりのある行動を実践しながら誰かのために行動することの喜びや思いやりが人と人をつなぐ力を体感してほしいと考えていた。以前は部員や児童同士で親切だと感じていたことなどを発表しあう場のプログラムとして考えていたものの、別の地域連携活動で部員が理想としていたプログラムにはならないと気づき、児童・部員がお互いに「ありがとう」と感謝を伝え合う場とした。(図3) (図4)



(図3) マニトプログラム説明中の様子



(図4) マニトプログラム終了時感謝を伝えている様子

②アイスブレイクプログラム

児童同士・また児童と部員の緊張をほぐすため、アイスブレイクプログラムにてハンカチ落としを行った。緊張していた児童も始まると少し緊張がほぐれ、ハンカチを落とした部員を円力で追いかけるなどとても盛り上がり、部員・児童が仲良くなれた1歩になったと感じる。(図5)



(図5) アイスブレイクプログラム中の様子

③運動会プログラム

運動会プログラムは「イカーゲーム」を模したものでコンギやチェギ、まためんこ、大縄をスタートからゴールまで順に用意しておき、グループごとに横並びに手をつないで進み、ひとつずつ遊びをクリアしていく時間を競うプログラムである。児童には初めて行う遊びであるため、やりたいものをそれぞれ担当して練習してもらい、時間や児童の様子を見ながらレースを開始した。とても盛り上がり、3レース行った。(図6) (図7)



(図6) 横並びで進んでいる様子



(図7) プログラム内ミッション大縄中の様子

④ボウリングプログラム

山びこ荘ふれあいセンターの地形を使い、小さなゲレンデの中腹からバランスボールを転がし、設置したペットボトルをどれだけ多く倒せるかというプログラムを行った。事前準備で部員も苦戦していた通し、真っ直ぐ転がすことが難しく、的に当てるが大変ではあったものの、児童・部員で協力し試行錯誤しながら、的に当たった時はとても盛り上がっていた。想像以上に暑く、熱中症等も考え早めに切り上げ、屋内体育館で再開した。体育館では真っ直ぐ転がすことができ、1位と2位の差が1点ととても白熱したプログラムとなった。(図8)(図9)



(図8) 屋外でのボウリングプログラムの様子



(図9) 屋内移動後のボウリングプログラムの様子

⑤本格ヨアジョンアイスプログラム

牛乳やヨーグルトを混ぜて冷やしたアイスにたくさんのフルーツなどを乗せる、流行りのヨアジョンをつかった。児童には自分の紙の器に絵を描いてもらい、その器で自分たちで材料の容量をはかりまぜ、固まったら好きなトッピングをして自分だけのヨアジョンアイスを作ってもらった。フルーツの量がわからず、少し余ってしまったが、児童がおいしそうに食べてくれたことが良かったと感じる。余ったフルーツ等は部員のデイキャンプ後の夜食になった。(図10)(図11)



(図 10) ヨアジョンを作っている様子



(図 11) 部員・児童が器に描いた絵

⑥ ローバー定食プログラム

部員で作ったカレーライスとミスカルという韓国のきなこの飲み物を昼食としてプログラムである。カレーを渡す際に韓国語で「ありがとう」をいうなど工夫を行った。部員分がなくなるくらい児童はたくさんおかわりをしてくれた。(図 12)



(図 12) カレーを食べている様子

⑦ ユンノリすごろくプログラム

韓国版すごろくを行うプログラムである。事前に用意していた部員お手製のすごろく表と韓国のユンノリを使い、プログラムを行った。タイムスケジュールが少し巻いていたため、時間調整のために行った。ボウリングプログラム後ということもあり、少し疲れている様子だったが、各班でクイズマスに止まると盛り上がっていた。(図 13)



(図 13) ユンノリすごろく中の様子

⑧なんじゃもんじゃプログラム

なんじゃもんじゃとはカードに描かれているものの特徴をとらえた名前をその人のセンスでつけ、それを全員で覚え、以降めくられたらその名前をいち早く叫ぶことでたまったカードを獲得し、集めた枚数を競うもともとあるカードゲームである。これを大阪万博のキャラクターでつくり、独自のなんじゃもんじゃを行った。このプログラムもユンノリすごろくプログラムと同様時間調整のために行ったが、ルールを知っている児童が多くとても盛り上がった。



(図 14) なんじゃもんじゃ中の様子

タイムテーブル

タイムテーブルは以下のとおりである。(カッコ内は予定時刻)

7:52 (8:00) 受付開始

8:31 (8:50) バス移動

9:04 (9:30) 開会式・マニトプログラム

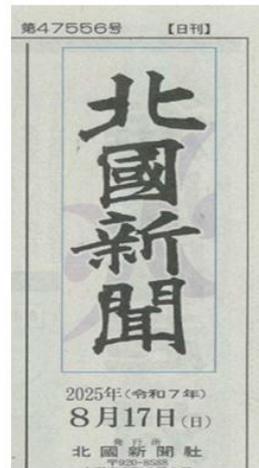
9:13 (9:50) アイスブレイクプログラム
9:36 (10:15) 運動会プログラム
10:32 (予定なし) なんじゃもんじゃプログラム
11:06 (11:40) 本格ヨアジョンアイスプログラム①
12:05 (12:15) ローバー定食プログラム
12:59 (13:15) ボウリングプログラム
13:32 (予定なし) ユンノリすごろくプログラム
14:44 (14:15) 本格ヨアジョンアイスプログラム②
15:03 (15:00) 閉会式
15:16 (15:20) バス移動・解散

はじめは緊張してあまりしゃべらなかつた児童も最後には笑顔で部員やほかのお友達と活動していた様子や、解散時の集合写真で子供たちの笑顔な写真を見て、1日を通してデイキャンプを楽しんでもらえた実感している。時間調整のために予定にはなかつたプログラムも2つ追加し、児童にプログラムを飽きさせることなく、運営側の担当者間でも臨機応変に対応ができた。ふれあいセンター山びこ荘の職員の方々や、当日視察に来ていただいた七尾市教育委員会教育長様からも大変ご好評いただき、翌日朝の北國新聞にもデイキャンプでの活動を掲載していただいた。運営担当者も当部部員にも満足度の高い地域連携活動になったと感じている。(図 15) (図 16)

ふれあいセンター山びこ荘職員の方から来年度の実施についても快くお引き受けいただけるとのお話もいただいた。当部部員としても来年度以降も新地町や気仙沼市での地域連携活動のように、毎年恒例のイベントとして根付くよう、規模や期間を増やし、開催できたらと考えている。部員一同気を引き締めて取り組んでいく所存である。



(図 15) デイキャンプ解散前の集合写真



(図 16) 北國新聞に掲載していただいた紙面

III 活動後

9月20日に当部、部会において活動報告を行った。自己評価や反省も交え、次年度以降につながるよう報告を行った。(図 17)



(図 17) 当部部会にて報告中の様子

活動スケジュール（実施した広報活動についてもご記入ください。）

- 3月中旬：能登半島の市役所等へ連絡（デイキャンプ開催の可不可、必要性）
- 3月下旬：当部監督が七尾市役所を訪問・七尾市教育委員会と打ち合わせ
- 4月5日：当部スタッフ会議にて本助成金申請書作成開始
- 4月12日：当部スタッフ会議にて開催場所検討、決定
- 4月30日：当部監督・コーチへ地域連携担当者より企画書・下見計画書の提出
- 5月9日：本助成金申請書提出
- 5月17日：当部スタッフ会議にて企画書・下見計画書の検討（レンタカー・部員児童参加人数等の検討）
- 6月1日：計画書・ポスター・保護者向け資料作成
- 6月5日：当部監督・コーチへ地域連携担当者より計画書・ポスター等の提出
- 6月7日：当部スタッフ会議にて企画書・下見計画書の検討（目的・活動内容の再検討）
- 6月10日：当部監督が七尾市教育委員会を訪問、後援について打ち合わせ
- 6月15日：当部監督・コーチへ地域連携担当者より計画書・プログラム計画書の提出
- 6月17日：臨時スタッフ会議にて計画書・プログラム計画書の検討・修正
- 6月19日：担当者及び監督で現地見、山びこ荘ふれあいセンター担当者様と会議
- 6月28日：当部スタッフ会議にて企画書の検討（テーマ再修正・活動内容検討）
- 7月1日：運営表作成
- 7月2日：当部監督より七尾市教育委員会へ後援申請を提出
- 7月4日：ポスター・保護者用資料配布、デイキャンプ申し込み開始
- 7月10日：七尾市教育委員会より後援許可をいただく
市内小学校へポスター・チラシを配布
- 7月12日：当部スタッフ会議にて計画書の検討・修正（調理・保険等について）
- 7月30日：食材発注
- 8月6日：デイキャンプ申し込み締め切り
- 8月9日：参加児童・保護者へ参加確認メールとフォームを送信
- 8月10日：装備類を七尾市へ発送
- 8月11日：残りの装備類を七尾市へ発送
- 8月15日：参加部員七尾駅にて集合、山びこ荘ふれあいセンターにてデイキャンプ準備
- 8月16日：部員23名、児童12名にて第1回七尾市デイキャンプを開催
当部インスタグラムにて活動中の様子をストーリーで投稿
- 8月17日：北國新聞より「児童が明大生と交流 七尾でデイキャンプ」の題で掲載
- 8月17日：参加部員七尾駅にて解散
- 8月18日：報告書作成開始
当部インスタグラムにて活動終了の報告をストーリーで投稿
- 8月19日：当部インスタグラムにて七尾市地域連携活動の写真を投稿
- 8月21日：当部インスタグラムにて七尾市地域連携活動の写真を投稿
- 9月7日：当部監督・コーチへ報告書を提出
- 9月20日：当部部会にて七尾市地域連携活動を報告

連携先からの一言/参加学生からの一言/参加者からの一言（連携先又は参加学生からの一言の場合、所属と氏名をご記入ください。）

所属：商学部 氏名：金東勲

今回の七尾市でのデイキャンプは、初めての開催であったにもかかわらず、会場を提供して下さった「やまびこ荘」の方々のご協力のおかげで、スムーズに実施することができましたと思います。これまでの新地町や気仙沼とは異なり、七尾市は最近大きな災害を受け、今もなお復興作業が続けられている地域です。そうした地域の人々、特に子どもたちに、私たちローバースカウト部が少しでも楽しさを届けられたことは、私自身にとっても、そして部員にとっても大きな意味があったと感じています。このご縁を大切にして、今後も活動を続けていきたいと思います。もし来年も奉仕活動を行う機会をいただけるのであれば、七尾市の特色をより感じられるお祭りなどとも連携して取り組んでみたいと考えています。

所属：政治経済学部 氏名：牛山悠太

初めての七尾市開催であったが新地町の反省や修正点を活かし上手くやり遂げることが出来た。来年度も引き続き頑張りたい。開催場所を貸してくれた長野さんをはじめ職員の方々にはとても感謝したい。ありがとうございました。

所属：経営学部 氏名：久保遼太

初めての能登での開催であったが開催場所の方々のご協力もあって成功することができて嬉しかった。手探りなところもあったが、来年以降もぜひ能登でのイベント開催を続けてほしいと思う。

所属：文学部 氏名：林瞭太

七尾での奉仕は一回目だったため、子供だけでなく部員も慣れていない中でのデイキャンプだった。そんな中でも、最初はとても緊張していた子供たちも帰るころには笑顔になって帰っており、満足してもらえたと思う。企画段階からコロサスキー場の地形を生かしたプログラムを考えていたが、最終的にはボウリングを行った。草そりができるといいなと思っていたので、そこが一つ心残りである。ただ、運営や子供たちの満足度から1回目としては成功を収めることができたと思う。ぜひ来年以降も継続して活動を行っていききたいと思う。

所属：経営学部 氏名：齊藤豪

今年初開催となった石川県七尾市での奉仕では、2年前に災害ボランティアとして訪れた時よりも街全体が明るくなっており、復興の進みを強く感じた。地元の方々の笑顔や活気が印象的で、人の力によって少しずつ地域が元気を取り戻しているのを実感した。ぜひ来年以降も続けて欲しいと思った。一方で、個人的に体調を崩してしまい、十分に活動に参加できなかったことに申し訳なさを感じた。今後は体調管理をより意識し、支援する側として最後まで責任をもって行動できるようにしたいと思う。

所属：法学部 氏名：宮本結衣

七尾は第1回の開催ということで、七尾の子どもの雰囲気も分からずとても緊張していました。運営側としてデイキャンプに参加したが、担当者全員が次何をすればいいのか、何の準備をしなくてはいけないのか、時間調整はどうするのかなどをとてもよく把握し、さらには時間調節用のゲームも上手く使って臨機応変に動いたことで、スムーズにデイキャンプを進行できたと思います。班付きをしてくれた1.2年生も多くは新知町奉仕に参加してくれた子だったこともあり、プログラムを把握してくれていたため、担当者だけでなく学生全員が臨機応変に動けたと感じました。ふれあいセンターやまびこ荘職員の方々にもとてもよくしていただき、デイキャンプで子どもたちにも楽しんでもらったのかなと思います。個人的な反省点としては、担当者間で認識ミスをしており、必要のなかったすいかを発注してしまったことと、子供達と班付きが食べるには多すぎるフルーツを発注してしまったことです。実際に作って量を確認することをしていなかったために出たミスなので、どうしても量がわからない時は実際作ってみるなどする必要性があるなど感じました。これ以外には特に反省点なく、学生コーチのおかげで2日目の夜に手持ち花火などもでき、とても満足度の高い運営が担当者としてもできたのではと思います。

所属：経営学部 氏名：椎名海斗

以前、七尾市での災害ボランティアに参加したものと、今回の地域連携奉仕に参加したことで被災地の復興の進展について、実体験として知ることができたことは非常に貴重な経験だったと思う。また七尾市で行われる初めての地域連携に幹部として参加できたことをとても嬉しく思う。参加者の募集や市役所との連携など困難な点が多々あるなかで、今回の地域連携を成功させることができたのはひとえに監督、コーチ、地域連携の幹部一同の尽力と七尾市役所、やまびこ荘の方々の手厚いご協力があつてこそである。そのため今回多くの方が尽力して築いた今回の地域連携の基盤を来年、再来年と将来にわたり続けてほしいと思う。

所属：農学部 氏名：高橋 ひかる

能登半島地震でのボランティア活動以来、約1年半ぶりの七尾でした。やまびこ荘での活動中では、幹部として裏方の仕事为中心で、1.2年生の頃とは違う角度から運営を支えることが出来ました。人との関わりを好む私にとっては前線に出すぎないように努めることが苦しく感じることもありました。しかし、施設の職員の方々とコミュニケーションを取れる機会が多く、今までとは異なった関わりを持つことが出来ました。楽しかった、という思いだけでなく、ためになった、という経験を得ることが出来て嬉しいです。活動を支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

所属：総合数理学部 氏名：渡邊政樹

自分は震災当初のボランティアには帯同しなかったため、今回が初めての七尾奉仕になった。地震からしばらく経ち、復興はかなり進んだが、所々ヒビが入っていたりとまだ地震の恐ろしさが分かった。七尾の子供たちと遊ぶという今までにない新しい奉仕だったが、大成功で終われてとてもよかった。これから続いていくであろう七尾奉仕の第一回目に立ち会うことが出来てとてもよかった。

所属：理工学部 氏名：宮本悠矢

今回の七尾奉仕では幹部として運営をしてきた。安全管理に関しては特に気をつけ自分たちも楽しんだ。外の気温が高くあまり外で遊ぶことはできなかったが中でも今までの奉仕同様子供たちに楽しんでもらうことができ、同時に親の偉大さを学ぶことができた。このような活動が今後も続いていければ良いと感じた。

所属：法学部 氏名：山田大貴

初めての地域連携参加でグループ付きとして動きましたが、アイスブレイクからおやつプログラムまで、自分自身も子供も飽きずに最後まで楽しめた思っています。山奥の自然豊かな場所で、屋外でのプログラムは少し暑かったですが、その地方っぽさを感じられてよかったです。

所属：商学部 氏名：大橋優太

七尾では初めての活動だったが、成功に終わってよかった。また、来年も参加したいという子供もいて嬉しかった。来年度もこの活動を受け継いでいこうと思った。

所属：商学部 氏名：山北奏太

七尾では初めての活動だったが、成功に終わってよかった。また、来年も参加したいという子供もいて嬉しかった。来年度もこの活動を受け継いでいこうと思った。

所属：政治経済学部 氏名：麓陽斗

今年が初めてなこともあり、どのような雰囲気か全く読めない節があった。しかしスポンサーの方々や参加してくれた子どもたちが精一杯楽しんでくれたおかげでとても素敵なものになったと思い、その一助となれたのはとても誇らしい。来年があればまた行かせていただきたい。

所属：政治経済学部 氏名：町田琉羽

初の奉仕で、子供たちが未知数だった反面、とても楽しい奉仕になり、とてもいい経験でした。今後も参加したいと思える奉仕だったと思います。

所属：商学部 氏名：緒方陽音

七尾の奉仕を通じて被災した地での子供たちとの関わりや、その震災からの復興で私たちができることについて知ることができてとても良い機会だったと感じています。今回のような交流をすることで子供たちが喜んでくれるだけではなく、私たちが現地の状況を知ることができたりと学びも多かったので、地域交流は大切だなと改めて思いました。

所属：商学部 氏名：北川直樹

七尾での奉仕は今年が初めてだったのもあってかデイキャンプの始めの方は子供たちも緊張している様子だったが、だんだんと打ち解けて最後はとても楽しんでもらえたように思う。来年以降も奉仕に参加することがあれば、今年の実験を活かしてより良いものにしていきたい。

所属：商学部 氏名：中駄真央

初めて参加する地域連携だったため、始まる前は不安もありましたが、無事成功して子供たちも私たちが笑顔で終わることができて嬉しかったです。デイキャンプや準備、片付けなどを通して同学年や先輩方ともこれまで以上にたくさん関わることができたことも嬉しかったです。また次の地域連携の機会があったら、七尾の地域連携で経験したことを活かしつつ、積極的に参加したいです。

所属：商学部 氏名：生野烈

宿が綺麗で楽しかったです。また子供達と話すのも新鮮で楽しかったです。

所属：農学部 氏名：瀬野透緒子

初めて参加した地域連携でしたが、とても楽しく活動することができて良かったです。被災してから、そこまで時間が経ったわけではないのに、子供達が地震での被害のことを口にすることなく、活動に熱中していて、とても嬉しかったです。完全に復興を終えるまでには、時間はたくさんかかると思うからこそ、この活動が続くといいなと思いました。

所属：国際日本学部 氏名：西玉ひなた

七尾では長野さんを始めとしたやまびこ荘の職員の方々がとても歓迎を下さって嬉しい気持ちで活動を始めることができました。他の二つの場所とは違って、食事が出てきたりお風呂の移動がなかったりととても良い待遇が受けられたような気がします。

また、七尾でのデイキャンプは初めてで子供達も慣れない中ローバーの人達とも色々と協力し合って成功させることができたのを嬉しく思います！

所属：国際日本学部 氏名：榮凜太郎

子供と触れ合うことができ、被災地に元気を与えるという経験を通して奉仕の精神を養うことができた。また、運営側に回った事で、イベントを影から支える仕事の大切さを学ぶことができた。